

【評価実施概要】

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2775300524 |
| 法人名 | 株式会社ライフパートナー (カブシキカイシャライフパートナー) |
| 事業所名 | グループホーム アムール高石 |
| 所在地 | 〒592-0011 大阪府高石市加茂二丁目6番6号 (電話) 072-266-3867 |

「グループホームアムール高石」は南海本線高石駅から徒歩約12分の閑静な住宅街の中にある。周辺には学校や市役所、病院、ジョギング広場や公園などがあり、環境に恵まれている。事業所独自のわかりやすい理念を掲げ、利用者のその人らしい暮らしを支えるサービスの提供を目指している。また、その理念を基に地域とより密着できるよう関係作りを行いケアに活かしている。運営推進会議では活発な意見交換が行われ、利用者が地域の一人として活躍できる場が広がりつつある。防災面でも地域の災害時や防災対策について、グループホームを核としての体制作りを進めている。高石市や市社会福祉協議会と協働して、認知症サポーター養成講座に協力し、認知症の理解に努めている。職員のスキルアップに関してもレベルに応じて適切な研修が受けられるような体制を確立している。

【重点項目への取り組み状況】

| | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 評価機関あんしん | | |
| 所在地 | 〒596-0808 大阪府岸和田市三田町1797 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年11月12日 | 評価確定日 | 平成21年12月22日 |

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 平成16年10月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 | 11人, 非常勤 6人, 常勤換算12.9人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------|-------|-----|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 ~ 2 | 階部分 |

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|------------------|--------------------|----------------|---------|-------|
| 家賃 (平均月額) | 60,000円 | その他の経費(月額) | 15,750円 | |
| 敷金 | 有 (円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (180,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 315 円 | 昼食 | 630 円 |
| | 夕食 | 630 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,575 円 | |

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 11 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 4 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 54 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 岸和田徳洲会病院 高石藤井病院 坂本歯科医院 |
|---------|------------------------|

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) |
| | 前回の自己評価及び外部評価の結果を基に、更なる質の向上に向けて研修体制の確立や、地域と共に防災訓練や対策に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) |
| 重点項目② | 管理者やユニット主任が中心となって、職員から現場のケアの状況を聴き取り、自己評価を行っている。改善事項等は全体ミーティング、ユニットミーティングで検討し、解決に取り組んでいる。さらに、自己評価及び外部評価を実施する意義について全職員へ更なる周知徹底を期待したい。 |
| | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) |
| 重点項目③ | 利用者の家族、社会福祉協議会や地域包括センター職員、地域校区委員、自治会役員が参加して3ヶ月毎に開催している。地域や地元小学校の行事等の地域交流、事業所行事へのボランティア申し出、防火訓練の協力等様々な意見交換が活発に行われている。子ども見守りたいへの参加も会議で提案され実現している。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) |
| 重点項目④ | 契約時に苦情・相談の窓口と担当者を説明し、重要事項説明書にも明記している。家族が定期的に来訪できるように利用料金を窓口支払いとしている。職員が担当制となっており、家族の来訪時には担当者が対応し、細やかに話しかけ意見等の聴取を心掛けている。また、運営推進会議にも家族の代表が参加しており意見等を聴く機会を設けている。介護相談員も受け入れている。 |
| | 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) |

地域の自治会の準会員として加入し、子ども見守りたい、だんじり祭り、運動会、盆踊り大会等地域の行事に積極的に参加している。子ども見守りたいには決まりの「ヤッケ」を着用して参加し、子どもたちが声を掛けてくる等、地域との信頼関係ができてきた。また、管理者は市社会福祉協議会と協働して認知症サポーター養成講座の講師として参加して交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者のその人らしい暮らしを支えるサービスとしての事業所独自のわかりやすい理念を掲げ、その理念を基に地域とより密着できるよう関係作りを行い、ケアに生かしている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を各フロアーの見やすいところに掲示している。職員の名札の裏面にも理念を記して、職員一人ひとりが理念を確認する一助にしている。地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、日々のケアに理念が反映されているかの意識づけを行いながら実現に向けた取り組みを行っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の自治会の準会員として加入し、子ども見守りたい、だんじり祭り、運動会、盆踊り大会等地域の行事に積極的に参加している。子ども見守りたいには決まりの「ヤッケ」を着用して参加し、子どもたちが声を掛けてくる等、地域との信頼関係ができてきた。また、管理者は市社会福祉協議会と協働して認知症サポーター養成講座の講師として参加して交流を深めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者やユニット主任が中心となって、職員から現場のケアの状況を聴き取り、自己評価を行っている。改善事項等は全体ミーティング、ユニットミーティングで検討して解決に取り組んでいる。さらに、自己評価及び外部評価を実施する意義について全職員へ更なる周知徹底を期待したい。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の家族、社会福祉協議会や地域包括センター職員、地域校区委員、自治会役員が参加して3ヶ月毎に開催している。地域の行事や地元小学校の行事などの地域交流、事業所行事へのボランティア申し出、防火訓練の協力等様々な意見交換が活発に行われている。子ども見守りたいへの参加も会議で提案され実現している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 月に1回、利用者の状況などの情報を市担当者に提供して意見交換をするなど連携を図っている。また、管理者は市の地域包括ケア会議にグループホーム連絡会の代表として参加し、関係者との情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 月に1度「アムールだより」を発行し行事予定や利用者の参加状況等の報告を行っている。また、家族が定期的に来訪出来るようにと利用料金を窓口支払いとして面会の機会を増やしている。来訪時には一人ひとりの利用者のケアプランの説明、金銭管理や健康状態の報告等を行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用契約時に苦情・相談の窓口と担当者を説明し、重要事項説明書にも明記している。職員が担当制となっており、家族の来訪時には担当者が細やかに話しかけ意見等の聴取を心掛けている。また、運営推進会議にも家族の代表が参加しており意見等を聴く機会を設けている。介護相談員も受け入れている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動や退職時には、どちらのユニットにも対応できる職員（兼務職員）を配置して利用者へのダメージを防ぎ、職員の負担を軽減する応援体制を作っている。年1回は代表との面談の機会を設けて職員の状況を把握し、意欲的に働けるよう配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人から主任までの職員の経験年数に応じた内部研修確認表を作成して積極的にスキルアップを図っている。各職員のレベルに応じた研修計画を作成し、研修修了後は報告書を提出し、全体ミーティングやユニットミーティングで研修内容の伝達を行っている。また、管理者・計画作成者は法人内で研修を行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2ヶ月に1回、高石市地域密着型サービス連絡会が開催され研修、情報交換、相互訪問等を行い、交流を深めサービスの質向上に努めている。連絡会では広報誌「ふれあいたかいし」を発行し地域に情報発信している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 併設の小規模多機能型居宅介護事業所を利用して入居に至ることも多く、職員や事業所と馴染みの関係が出来ている場合も多い。家族の相談から面接、自宅訪問、事業所の見学等を行いながら、時には自宅周辺を一緒に散歩したり趣味に付き合うなどしながら、その人に応じた支援を工夫し信頼関係を構築している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で、おはぎの作り方、植木の世話や、畑の耕し方など多くの事を教えてもらう場面が多い。そのような場面が多く持てるように人生の先輩として尊重し共に学習し、支え合う関係作りに取り組んでいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員が担当制となっており、日々のケアの中で利用者と向き合い思いや意向、趣味や活動等の把握に努めている。また、利用者一人ひとりの生活歴、職歴、嗜好などの情報を職員が記入した個性表を作成し、情報の共有を図り、ケアに生かしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | モニタリングは1ヶ月に1度行っている。管理者、計画作成者、担当者、時には家族を含めてカンファレンスを開催し、利用者がよりよく暮らすための介護計画を作成している。職員は報・連・相ノートに利用者の希望や意見、日々の細かな気づきを記入し、情報を共有することでケアの統一を図っている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、体調の変化や本人・家族の希望に応じて随時見直しを行っている。緊急時や状態に大きな変化が見られた利用者にはカンファレンスに家族の参加を呼びかけている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者や家族の希望に応じて医療機関や喫茶店、理美容室等への外出の支援を行っている。担当職員が帰宅願望の強い利用者には一緒に自宅を訪れ草刈をするなど、利用者の状態に応じて一人ひとりの気持ちに添った支援をしている。状態に変化が見られ食事の介助に訪れる家族が、台所を使用できるように配慮する、毎月お寺さんが月参りに居室を訪問するなど利用者や家族の希望に添った支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者・家族の希望するかかりつけ医や医療機関を受診できるように支援している。状況に応じて、認知症専門の医療機関にも受診できるように連携を図っている。事務室の掲示板に利用者の受診予定を記入し、全職員が把握している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族等が事業所での看取りを希望する場合に、全体ミーティングでできることを話し合っている。その結果を基に利用者・家族のその時々々の意向を確認しながら主治医、家族、職員等関係者で話し合い、具体的な対応や必要事項の確認を行い、その人らしい終末を迎えることができるように支援している。また、カンファレンスの内容は詳細に記録を残し同意書を取り交わしている。 | | |

| 外部 評価 | 自 己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--------------|--|--|--------------------------|-----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の自尊心を傷つけないような環境への配慮や、一人ひとりの誇りを尊重した言葉遣いなどに配慮している。気になる言葉が使われているときはその場で注意している。利用者の記録物は事務所内で保管・管理している。個人情報の取り扱いに関しては、職員に説明すると同時に実習生・ボランティアにも説明している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活習慣をつけるために、一日の大まかな流れはあるが、利用者一人ひとりの希望にあわせ、そこで過ごす上での暮らしを支援している。起床、入浴、食事、就寝等柔軟に対応している。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 基本的には法人内の栄養士が作成した献立によって調理を行っているが、食材に縛られることなくそのときの利用者の希望に応じるなどフレキシブルに対応している。台所はオープンキッチンになっていて、利用者が調理に参加し易く、調理している煮物の匂いなど、日常生活の中で感じる音や匂いは、適度な刺激となっている。月に数回利用者メニューを取り入れ、お寿司やお好み焼き、外食など利用者の楽しみとなるような支援をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴の時間帯を固定せず、午前10時から19時までの好きな時間に入れるように支援している。季節のお湯を楽しめるように工夫し、お風呂のお湯も一人ずつ変えている。入浴を拒む方には対応する職員や時間を変える、気分転換をする等の配慮をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者一人ひとりの生活歴や職歴、嗜好などの情報を聴き取り個別性獲得シートに記録することで情報を共有し、利用者の個性を大切に支援している。日常の家事や洗濯・新聞取りなどの役割やおやつや衣類の買い物、カラオケ、喫茶店に行くなど楽しみごとや気晴らしの支援をしている。今後は重度の認知症の利用者に張り合いや喜びを感じて暮らしていただけるような取り組みを目指している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近隣を散歩したり、地域の行事参加、買い物やカラオケ店や喫茶店、理・美容院などに出かけている。季節毎にはイチゴ狩り、みかん狩り、海遊館などにも出かけている。年に1・2回の日帰り旅行を企画している。また、事業所の玄関前のオープンテラスで外気浴、焼き芋を作る等の気分転換も図っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 幹線道路に面しており、日中玄関の外側のドアは利用者がオープンテラスに出ているとき以外は施錠している。ユニット間は職員の勤務状態などでやむを得ない時は自動ドアを手動にするかもしくは施錠している。管理者は鍵を掛けることの弊害を理解している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署の協力指導の下、避難訓練を実施している。緊急時の対応マニュアルを作成し、災害時緊急連絡網を整備している。また、地域で行われる防災訓練にも住民として参加し、地域との協力体制が整ってきている。今年は消防署の申し入れにより、合同消防訓練を事業所で行っている。事前の打ち合わせを何度も行い、認知症の理解を含め、利用者を知ってもらう機会ともなっている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が栄養バランスのよい献立を作成している。利用者の体温・血圧を含め水分摂取量や食事摂取量を把握し熱計表に記録している。それぞれの利用者の状態に応じて、食事を刻み食にするなど食べ易いように配慮している。 | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルと椅子を置いた玄関前のオープンテラスは外の空気に触れ、近隣の顔なじみの方と会話し、花を眺めたり寛げる空間となっている。居間はテレビ、ゆったりを座れるソファ等クラシック調の調度品を置いている。コーナーにはピアノを備え付け、利用者の方が演奏を楽しめるようにしている。視線を気にすることなく気の合ったもの同士が楽しく過ごせるような居場所作りができています。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、筆筒、仏壇、時計、家族の写真、ぬいぐるみ、ラジオ、テレビ、そろばん、アルバム、手芸品、洋服などの使い慣れた馴染みの品々が置かれている。どの居室もその人らしい雰囲気の設定となっていて安心して過ごせるための環境づくりができています。 | | |

※  は、重点項目。